日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けた魅力発信パネルディスカッション

令和4年3月13日(日)に十勝総合振興局講堂において、「日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けた魅力発信パネルディスカッション」を開催しました。国立公園化に向けて、自然公園を活用した地域資源の適正利用の気運醸成を図るため、十勝・日高管内の自治体や関係機関とともに、自然の魅力発信と観光資源に関するパネルディスカッション(オンライン)を開催し、YouTube上で録画配信しています。

■ 開催日時　令和4年3月13日(日) 13:30 ～ 15:30
■ 実施場所　十勝総合振興局　3階講堂
■ 主　　催　北海道十勝総合振興局、北海道日高振興局
■ 共　　催　帯広市、清水町、芽室町、中札内村、大樹町、広尾町、北海道十勝圏活性化推進期成会、北海道十勝町村会、北海道日高総合開発期成会、北海道日高町村会(日高町、平取町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町)、日高山脈国立公園化推進事業実行委員会、日高東部・十勝南部広域連携推進協議会
■後　　援　北海道新聞社、十勝毎日新聞社、帯広商工会議所、日本航空(株)

1．開会

開会にあたり、十勝総合振興局くらし・子育て担当部長の鳥井美奈子より、「日高山脈襟裳国定公園は、国立公園として相応しい傑出した景観要素と四季折々の風景が国内外に誇り得るものであり、日高・十勝両地域の貴重な自然資源を次世代に継承していくためにも国立公園化指定が重要なものと思っている。」また、「この日高山脈の魅力を少しでも多くの皆様に理解いただくことが大切なことと考え、本日のテーマを設定させていただいた。本日のパネルディスカッションを通じて地域の貴重な財産である日高山脈襟裳国定公園のことを今まで以上に知っていただきたい。」との開会挨拶をいただきました。

鳥井美奈子　部長

2．パネルディスカッション

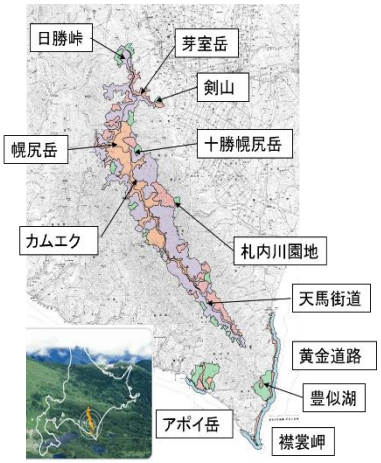
テーマ「日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けた魅力発信と観光資源などについて」

コーディネーターである北海道大学大学院農学研究院　愛甲哲也准教授の進行でパネルディスカッションは始まりました。

日高山脈襟裳国定公園は、非常に大きな魅力とポテンシャルを持っている場所であります。今後の国立公園化に向けて、どのような手法で魅力を発信していくべきか、それを考えていくことが大切なことと思っています。

まずは、以下パネリスト4名の自己紹介や各団体等の取り組み概要発表の後、国立公園化に向けて、どのように魅力を伝えていくか、また、国立公園化になることによって課題はないのかなどを話していきました。

コーディネーター
愛甲哲也　准教授



山北自然保護官からは、現状の日高山脈襟裳国定公園の魅力をはじめ、国立公園化のスケジュール感と意義、今後の地域との連携、環境省としての取り組み、地域に期待することなどについて、お話ししていただきました。

「日高山脈の最大の特徴は、原生流域の面積が日本一広い場所であるといこと。利用という面では、大変厳しい山脈が連なっており、一般の利用者は限られてしまう。そういう意味では原生的とも言えますが、デメリットがあるので、区域にとらわれずにその周辺の観光拠点と連携して国立公園をPRしていけたらと考えています。」

山北育実　氏
環境省帯広自然保護官事務所
自然保護官

須賀委員からは、地元として国立公園化に期待するもの、こうなって欲しいという夢、国立公園化により地域にどのような波及効果があるかなどについて、お話ししていただきました。

「地域住民にとっては、見慣れた山で無関心層も多く、心の琴線に触れるのが難しいという課題がある。対策としては、村民へのさらなるPRは基より、商工観光業者の誰もが日高山脈に詳しい営業マンになっていただいて、日高山脈を観光客に紹介できればと思います。」

「地元の山岳会などと連携して入山者が山岳遭難などの危険性を理解できるシステムづくりが必要である。」

須賀裕一　氏
中札内村日高山脈国立公園化PR事業実行委員会委員

梶山代表からは、日高山脈及びその山麓地域の魅力、アウトドアレクリエーションの特徴、国立公園化に期待するもの、今後取り組んでいきたいことなどについて、お話ししていただきました。

「私にとって日高山脈は、視点の違いでその見方も異なり、いつも新しい発見があり感動している。」「いろいろできるキャンプ場として、道内は基より道外からのリピーターが多い。」

「一方、多くの人が訪れるためオーバーユースを含め、公園利用について正しい知識を受入側で準備していくことが大事である。」

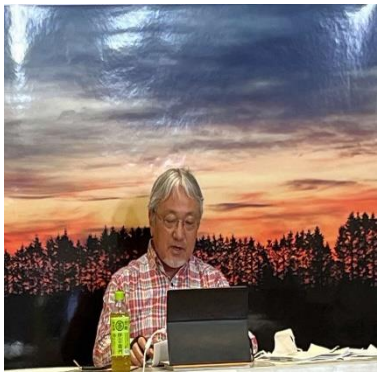
梶山智大　氏
札内川園地指定管理者
(株)AOILO代表取締役

田中会長からは、ファンクラブの活動、日高山脈の植物保護や活動の課題、国立公園化に期待することなどについて、お話ししていただきました。

「地球温暖化も一つの要因と思われるが、植物の盗掘が減っても増えていかない。」

「登山道とお花畑の区別ができないことから整備が必要である。」

「人が増えることによって、ゴミ問題等が懸念されることから、行政とのスムーズな連携が必要である。」



田中正人　氏
アポイ岳ファンクラブ会長

３．まとめ

最後に愛甲准教授からは、大雪山国立公園ビジョンを例に、「観光、登山、自然保護などについて観光協会や自然保護団体等の皆さんで協働型管理運営体制で動いている。」「産学官や各種団体等で議論していただき、国立公園化に向けたビジョンを作成して、様々な連携を図れればよいと思う。」「本日の皆さんのお話を伺って、ひとり一人がきちんと連携すれば、全員が関係者であると意識を持ち、これからの多様な問題だったり、人材不足の面であったり、課題もいろいろあるかとは思いますが、そこも乗り越えていけるものだと思います。」とのまとめで終了しました。